

令和5年度 機関別認証評価の結果における優れた取組み

公益財団法人 日本高等教育評価機構

1. 大学

機関名	基準項目	優れた点
愛知工科大学	2-2. 学修支援	1年次の学生に対し、学修ポートフォリオによる学修状況や生活状態の記録と共有を図りつつ、学科教員が面談を毎週実施し、適切な助言を与えている点は評価できる。
青森中央学院大学	2-3. キャリア支援	教育課程の内外にわたってきめ細かいキャリア支援体制を整備し、公務員講座や看護師・保健師国家試験対策、インターンシップや臨地実習などのキャリア支援プログラムを実施することによって高い就職率を維持していることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	「サークルスタートアッププロジェクト」「ねぶたのお面制作プロジェクト」など、学生が主体的に取り組む事業に対して「学生プロジェクト支援制度」を整備し、経済的支援を行うことによって地域理解の促進と学生の成長支援を行っていることは評価できる。
朝日大学	4-4. 研究支援	教員に対し外部研究資金の公募状況を常に発信し積極的な応募を促すほか、総合協議会において毎月応募・採択の可否状況を報告・点検する対応や、科学研究費助成事業の不採択者に対する分析等、個別の具体的指導により、科学研究費助成事業をはじめとする外部資金獲得実績を着実に積上げている点は評価できる。
旭川市立大学	2-3. キャリア支援	地元への就職率が高く、旭川圏及び北海道圏に貢献できる人材を育成し、輩出している点は高く評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	地域の理解促進につながる授業科目として、「あさひかわ学」「北海道学」「文化人類学（アイヌ学を含む）」を開講している点は評価できる。
芦屋大学	2-4. 学生サービス	文化系・運動系のクラブ、同好会等の認定団体があり、半数近くの学生が参加し、全学を挙げて建学の精神を具現化できるディプロマ・ポリシー達成のための教育活動として、教職協働の顧問制度及び活動予算による支援をしているのは評価できる。
	4-4. 研究支援	公的研究費の獲得と倫理教育との両面において、各種規則整備、研修推進、資料整備、アンケート調査、インセンティブ付与等の重層的な啓もう・支援体制を構築していることは評価できる。
一宮研伸大学	2-2. 学修支援	オフィスアワー制度について、兼任教員を含めて全学的に実施・展開した学修支援体制は評価できる。
	2-4. 学生サービス	大雄会病院看護師寮を安価な家賃設定で学生に提供している点は評価できる。
岩手保健医療大学	2-5. 学修環境の整備	全学生がタブレット端末を保有し、デジタルテキストやオンライン教育教材を多用することで、遠隔地での臨地実習中においても幅広く学修教材を閲覧できるように配慮しており、先進的なICT教育を実施している点は評価できる。
	4-4. 研究支援	学内共同研究においてベテラン教員と若手教員のペアリングにより若手教員のスキルアップを図り、事務局担当者が研究費募集等の情報収集・提供、申請書の書き方等の指導を行い、教職協働で科学研究費助成事業申請率の向上につなげている点は評価できる。
宇部フロンティア大学	2-4. 学生サービス	「学生支援方針」を定め、チューター制度や学生相談室などを整備し、学生の心身の健康に関する相談に応じ、助言を細やかにやっている点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	図書館では、スチューデントワーカーの活用、学外館連携事業、学生協働活動、宇部市立図書館職員との意見交換会の実施といったさまざまな取組みを行っており、それらの活動に学生が積極的に参加している点は高く評価できる。
奥羽大学	5-1. 経営の規律と誠実性	「奥羽大学防災・業務継続計画(BCP)」を、大学ホームページに公開し、立地や気象条件等を考慮しつつ防災及び業務継続全般を網羅するほか、具体的事例とその対応方法を掲載するなど、大学として危機管理の意識が高い点は評価できる。

桜花学園大学	2-1. 学生の受入れ	「入学者選抜方式別ポリシー」がホームページに明記され、志願者が各自の資質や能力に合わせて選抜方式を選択できるようになっている点は評価できる。
	2-2. 学修支援	保育学部では「学びのカルテ」で履修状況を確認し、学芸学部では「学修ポートフォリオ」で学びの振り返りを行うなど、学生が自主的な学修ができる支援策の展開を行っている点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	保育学部保育学科で、学生主体の「学部学生運営委員会」において、3年生による「4年生の就活を応援する会」や、3年生と4年生の「地域別交流会」を行い、就職支援及び学生の職業的自立に向けて活動を行っている点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	授業中間アンケートの実施活用により、教員の指導方法の改善が見られるなど、学期中に授業改善が行えるようにしている点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	保育学部保育学科及び国際教養こども学科の就職先へのアンケートを実施・検証し、ディプロマ・ポリシーの見直しを行っている点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	「学校法人桜花学園施設等の使用及び利用に関する規則」を定め、電気使用量の減量対策の実施の他、地下水を利用し環境保全に配慮し、里山を設け、温暖化防止にも努めていることは評価できる。
大阪大谷大学	2-2. 学修支援	「障がい学生支援室」を設置し、入学前からオープンキャンパスでの修学相談、「大学生生活支援カード」の提出で早期に配慮の必要性を把握する仕組みを構築し、合理的配慮が必要な学生へのサポートが充実している点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	多様な学生への対応として、学生相談室が令和元(2019)年度から「教職員のための学生サポートブック」を発行し、教職員の学生に対する対応の質の向上、各部署とのスムーズな連携などに取組んでいることは評価できる。
大阪観光大学	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	令和4(2022)年度に国連世界観光機関(UNWTO)の観光学教育国際認証「TedQual(テッドコール)」を受け、認証されたことは評価できる。
大阪芸術大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	大学の特性を生かした総合的な学びとして、地域社会や産学連携におけるプロジェクトが積極的に実施されていることは高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	多様な学科を擁する芸術系大学として、博物館、芸術劇場、撮影所、映画館、テレビスタジオ、多目的ホールなど、専門性に特化した施設・設備が充実しており、これらが学生によって積極的に活用されていることは、高く評価できる。
大阪工業大学	2-3. キャリア支援	各学科に専属の就職担当職員を置き、卒業研究や課外活動の担当教職員とも連携することで、学生一人ひとりに応じたきめ細かい個別支援を実施し、毎年高い就職率を維持していることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	「人力飛行機」「ロボット」「学生フォーミュラ」「ソーラーカー」など学生を主体とするプロジェクト活動に対し、活動拠点として「モノラボANNEX」の整備と提供、教員や専門技術者の配置など全学的支援を行い、全国的に高い実績を挙げていることは評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	「ディプロマ・サプリメントシステム」によりディプロマ・ポリシーの達成度などを点検・評価して、入学時から就職活動、卒業時まで学生の指導をきめ細かく行っていることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	「中期目標・計画」に、学生募集、教育・研究、学生支援、進路・就職、財務など10項目を設定し、それぞれ「基本方針」「行動計画」「目指す成果・達成状態」「年度別達成指標」などを各部署で立案し、年度ごとに点検・評価を行っていることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	IRセンターでは学内各部署から収集したデータを多様な視点でデータ処理を行い、その詳細な結果を毎年「IR年報」に編集して発行し、これをもとに学内の自己点検・評価及び改善の起点としていることは評価できる。
大阪総合保育大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	人として発達や成長変化が最も著しい乳幼児に対する専門的知識・技能、確かな実践力を備えた保育者を育成することを目的として乳児保育学科を開設し、大学独自の乳児保育士資格を設け、3歳未満の乳児保育や子育て支援の社会的ニーズに対応していることは高く評価できる。

大阪総合保育大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	教育研究施設として「総合保育研究所」及び「子ども総合保育センター」を設置し、研究活動を推進するとともに保育や教育実践の課題に密着した情報を学内外に発信し、地域に開かれた学びの拠点となっていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	インターンシップ実習及び資格・免許取得実習と関連授業科目との往還を通じて、学びが相互に深まるよう大学独自の「子どもと1700時間プログラム」という実習機会を初年次から教育課程に置いていることは高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	授業のために模擬保育室を開放して、近隣施設の乳児・幼児を受入れ、授業内で学生と子どもとが交流し、学生の学修環境を充実させるとともに地域貢献も視野に入れた弾力的な運用を試みている点は高く評価できる。
関西医療大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	建学の精神や大学の将来ビジョンに基づいた活動を推進するために、これらを携帯型クレドに記載し教職員が携帯することや、学内各所に掲示することで、教職員及び学生への意識付けを行っていることは評価できる。
	2-1. 学生の受入れ	独自の「Style K (高校版)」「First Step」等の広報誌において、大学入試や医療関係の資格・仕事などの自大学以外の情報も提供しており、医療職を目指す高校生の進路選択支援をしていることは評価できる。
	2-2. 学修支援	TAとなる大学院生には事前研修や実績報告書の提出を義務付けており、単なる学修支援にとどまらず、大学院生の教育体験の場としていることは評価できる。
畿央大学	4-2. 教員の配置・職能開発等	FD活動や学外のFD情報を掲載した「NEWS FD+」を作成し、ホームページにも掲載し広く公開していることに加え、「授業改善に関するTips集」を、兼任教員を含めた教職員に公開している点は高く評価できる。
京都外国語大学	2-2. 学修支援	障がいのある学生支援のために「学生サポーター」制度を導入し、各種講習会を実施してその質を保ち、年々学生サポーター数を増やして学生が共に学び成長できる環境を整備していることは高く評価できる。
	2-3. キャリア支援	障がいのある学生の就職支援のために複数の外部支援団体と連携し、就業体験を通じて自分に合った働き方を見付けられるようにし、高い就職率を維持している点は評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	「内部質保証に関する方針」「点検・評価委員会規程」「外部評価委員会に関する定め」に基づき、学外有識者を点検・評価委員会の外部評価委員として委嘱し、毎年度、自己点検・評価の結果及び実施状況に関する外部評価を実施していることは評価できる。
国立音楽大学	2-3. キャリア支援	音楽系以外の職業を含むキャリア支援に関する組織的な取り組みが年間を通じて行われており、学生の多面的なキャリア意識の向上に大きく貢献している点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	「くにおんごはんステートメント」に基づいた学生食堂のメニューは安価で栄養バランスも考えられており、学生の満足度が高い点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	附属図書館や楽器学資料館は音楽を専門とする大学として充実した資料を擁しており、この資料を活用した授業や市民向け講座も実施されている点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	専門課程において学生の興味・関心と到達度に応じて選択できる「コース制」は、卒業後のキャリアデザインに資するものとして評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	卒業後5年後、10年後の卒業生や、卒業生の就職先を対象とした「国立音楽大学卒業生に関するアンケート」「学生ヒアリング」など、各種追跡調査による分析を行っている点は評価できる。
	5-5. 会計	内部統制監査を実施しており、決算プロセス全体にわたって適切な監督と管理を行うことにより、財務諸表の正確性や法令遵守の保証を行っていることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	出願しなかった受験生に対しても、大学に対する印象、期待又は進路選択等に関する調査を実施し、大学の学生募集活動及び広報活動に生かすIR活動を実施していることは評価できる。
健康科学大学	3-2. 教育課程及び教授方法	教養教育において、「健康科学論」「生活健康学」等の大学の独自性を強調した科目、山梨県や富士河口湖町との連携のもと「富士山と環境」「地域連携の理論と実際」といった地域深掘的な科目を開講しており、大学及び地域の特色を生かした教養教育の充実化を図っている点は評価できる。

甲子園大学	3-2. 教育課程及び教授方法	大学は兵庫県宝塚市と連携協定を結び市立看護専門学校と協力して栄養学、心理学、看護学分野の多職種連携教育(IPE)に関する教育プログラムを実施しており、その取組みが良い先行事例として日本保健医療福祉連携教育学会誌で紹介されたことは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	図やフローチャートを用いた分かりやすい「甲子園大学危機管理マニュアル」を作成し、教職員及び学生に配付している点は評価できる。
埼玉学園大学	3-2. 教育課程及び教授方法	学生の保証人に対して授業公開を実施し、その参加実績を高めることで実際に行っている授業に対する関心と理解を深める取組みは評価できる。
滋慶医療科学大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	医療科学部臨床工学科の学生便覧では、三つのポリシーを単に記載するだけでなく、三つのポリシーの意味と各ポリシーの相関性を分かりやすく説明している点は評価できる。
	2-2. 学修支援	学修支援について、教職協働による連携のもと、定期的に行われる学生面談や学生自身が入力する学修ポートフォリオにより学生状況の把握が適切に行われている点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	学修及び学生生活の問題や不安の解消のため「学生相談・苦情情報の共有と組織対応のフロー」を作成し、教職協働で全学的に取り組んでいる点は評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	教育内容の改善・工夫のため、全ての授業を対象にした教員相互の授業参観を行い、その結果を授業担当者にフィードバックしていることは高く評価できる。
	4-3. 職員の研修	FD/SD研修は1・2か月に1回程度実施しており、個人情報の取扱いや障がいのある人への支援に関する研修などさまざまなテーマを取上げて積極的に開催している点は評価できる。
至誠館大学	2-2. 学修支援	東京キャンパスでは、在学生の中でも多数を占める出身国籍の職員を複数人配置し、母国語での学生相談などのサポートを行っている点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	各科目のシラバスに、前年度の授業評価アンケート結果からの改善点を明示する欄を設けている点は評価できる。
	4-3. 職員の研修	SD活動参加者に対してアンケート調査を実施し、満足度や希望するテーマを把握し、以降のSD活動の充実に向けて組織的に取り組んでいる点は評価できる。
周南公立大学	2-2. 学修支援	図書館内に設けられたピアサポートセンターで学生サポーターが留学生を含む後輩学生の学修や学生生活を支援する体制を整えており、サポートを受けている学生の学修や学生生活の質の向上につながっていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	地域企業や地方公共団体と共同でキャリア教育を行い、卒業後、大学の地元地域で働く人材の育成・輩出に貢献していることは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	専任教員間で相互授業参観を義務化した上で、詳細な参観報告書を記録として残し、それを教員間で共有していることは評価できる。
杉野服飾大学	3-2. 教育課程及び教授方法	服飾製作の基礎を縫製面から学ぶために、各種の服の製作上の技法について、製作手順ごとに動画に解説を加えた電子教材を独自に開発し、学生がスマートフォンやタブレットパソコンで閲覧できる環境を整えて活用を促している点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	「大地震対応マニュアル」を学生と教職員に配付し、災害対策用の貯蔵品を定期的に点検・入替えを行い緊急時に備えている点は評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	卒業生の就職データ、就職先企業へのヒアリング、就職先企業及び卒業生との授業改善を目的とした会議等を通して外部評価活動を制度化していることは評価できる。
西南女学院大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	1年次の必修科目として「キリスト教と西南女学院のあゆみ」を開講し、西南女学院の歴史を知り、キリスト教の精神を学び、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深め「西南女学院生」としての自己形成を深める積極的取組みは高く評価できる。
	2-2. 学修支援	学科ごとに「退学防止のための学科における取組み状況」として、年度方針を定め、分析を行い、次年度の改善策を定めるなど、退学防止策が充実している点は、評価できる。
	2-4. 学生サービス	毎年、新生を対象に「健康調査 (University Personality Inventory)」を実施し、必要に応じて学生総合支援室への来談勧奨を行っている点は高く評価できる。

西南女学院大学	3-2. 教育課程及び教授方法	教養教育課程として、大学に「総合人間科学」を独自に設定し、キリスト教教育、女性と健康、地域創生など7つの領域を設け、学ぶ喜びの醸成なども目指していることは評価できる。
摂南大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	「大学改革のための学長ワークショップ」を実施し、将来ビジョンや入学前教育、低学年次の勉強等の課題に対し、直接学生の意見を聴く機会を設け、そのワークショップで得られた結果をラーニング・コモンズ設置に反映したことは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	組織的な教育を行うため、兼任教員との教務打合せ会議を実施し、各授業科目の教育内容、教育方法、授業内容・進度の調整等を事務局含め全学的に取組む仕組みを構築していることは評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	外部アセスメントテストの導入、学生自身がディプロマ・ポリシーの修得状況をレーダーチャートで確認できる「S-log」の導入など、学生の成長の可視化のための積極的な取組みは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	各部署の内部質保証に関わる活動のデータをIRセンターで集約し、データ処理して編集した「摂南大学Fact Book」を中心に、学内の自己点検・評価及び改善の起点としていることは評価できる。
高岡法科大学	2-3. キャリア支援	全学をあげて組織的な就職支援体制を整え、最後の1人まできめ細かく指導することで、過去複数年にわたり就職希望者の就職率が高水準で達成していることは高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	「オープンカウンセリングルームひまつぶし」を開き、困り感を抱える学生の早期発見、仲間づくりや教職員と交流できる居場所を作る、という積極的な試みを行っている点は評価できる。
筑紫女学園大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	教育の質向上に向けた継続的な活動を実施することを目的に、活動の理念や具体的な体制、方法を冊子「基本理念と教育目標」にまとめ、全学的に周知するとともに、全教職員を対象とした「基本理念と教育目標」発表会を毎年度実施し、教職員が理念や目的等を再確認している点は評価できる。
	2-2. 学修支援	三つのポリシーに加え、独自の方針として「総合的教育・学習支援の方針」を掲げ、学生に対する入学前から卒業時までの、学士課程教育の達成に即した正課内外の支援体制を整備している点は評価できる。
	2-2. 学修支援	LCスタッフ、SA、学生サポートスタッフ、留学生チューターといった学部生による学修支援活動が充実している点は高く評価できる。
	2-3. キャリア支援	企業と協同した課題解決型学修である「筑女“めざめ”プロジェクト」など、多彩で細やかなキャリア支援を行っている点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	学生自身がアイデアを生かしながら地域貢献やキャンパスの活性化などの課題に取り組む「学生チャレンジプロジェクト」による課外活動への支援を行っている点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	「筑紫女学園大学ダイバーシティ推進宣言」を掲げ、病気や障がいのある学生・教職員、文化的多様性や性的多様性を持つ学生が快適に過ごすことのできる環境整備やキャンパスのバリアフリー化を積極的に推進している点は高く評価できる。
	4-3. 職員の研修	「自己啓発サポート制度」の設置、高等教育に関する知識を網羅したeラーニング教材からの選択形式の研修を導入し、事務職員の能力向上とキャリア形成に努めていることは評価できる。
	4-4. 研究支援	研究を支援する研究費として個人研究費のみならず、「特別研究助成費」「学術出版助成費」「在外研修助成費」や「海外出張助成費」等を設け、教員の研究の促進を積極的に支援していることは評価できる。
中国学園大学	2-4. 学生サービス	年4回開催される「学生支援セミナー」では、学生生活に密着したテーマを取上げ、学生の参加率も高く、大学全体で積極的に活用している点は高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	学生の自治組織である学友会活動については、学生部の支援のもと、リーダーとしての資質向上及び組織活性化を目的に、学友会執行部・各サークル部長に対し、「リーダーズセミナー」を実施し、協調性や心身の鍛錬、人間形成を図っている点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	学修支援の一環として実施する授業評価アンケートは高い回収率を保持し、学生の意見・要望の把握、分析に活用している点は高く評価できる。

中国学園大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	「学長と語る会」や学生生活向上委員会を設け、学生の積極的な意見をくみ上げるとともに、それらの意見を学修環境等の改善に生かしている点は評価できる。
筑波学院大学	5-1. 経営の規律と誠実性	毎年度理事長が作成した「経営理念書」を全教職員に配付し、朝礼時に教職員が輪番で読上げ、経営理念の浸透と共有及び組織倫理・規律の醸成を図っていることは評価できる。
東亜大学	2-5. 学修環境の整備	下関市内の5高等教育機関で締結する「下関市内5高等教育機関附属図書館相互利用協定」に基づき、5機関に在籍する学生が相互に図書館を利用できる点は評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	授業参観での評価点を総合して検討し優秀授業を決定しており、優秀授業に選ばれた教員はFD講習会で講演を行い、授業での取組みや工夫など、授業向上につながるノウハウを全ての専任教員に公開している点は評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	外部評価委員会を設置し、学外の有識者から助言を得る体制を整備し、教育、学生支援、国際交流、地域貢献等に関する事項や大学運営に関する事項について学外有識者が助言を行っている点は、評価できる。
東海学園大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	「ともいき教養教育」を大学の個性・特色として広く社会に発信している点は評価できる。
	2-2. 学修支援	学修支援システムの「保護者ポータル機能」を利用して、保護者が学生の履修状況と成績をオンラインで確認できる仕組みを設けていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	大学キャリア支援サイト内に保護者向けコンテンツを掲載し、保護者との情報共有を図っている点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	運動部員に特化したキャリア支援や就職説明会を行う等、キャリア支援体制が充実している点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援として、在学生全員を対象とした「緊急修学支援金」、主な生計維持者の収入減少に対応した「家計急変者支援給付」を迅速に実施した点は高く評価できる。
東京家政学院大学	2-5. 学修環境の整備	資料的価値の高い「大江文庫」について、学内利用に加え、学外からの資料貸借や取材に対応するなど、学術的資料の積極的な有効活用を行っていることは高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	大学独自の取組みである「書店ツアー」は、学生の目線で選書させ、「学生に身近な図書館」を目指した試みとして評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	「内部質保証推進委員会」の構成員に外部評価員が加わり、客観的視点からの評価・提言を受け、自己点検・評価体制の改善や内部質保証の充実に生かす体制を整備していることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	「内部質保証推進委員会」の内部に「改善推進部会」を設置し、自己点検・評価結果を踏まえた教育改善に努めていることは評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	大学と産学連携事業を締結している企業との間で、三つのポリシーと大学の教育活動の関連について意見交換をする機会を設定し、内部質保証の取組みを充実させている点は評価できる。
東京純心大学	2-2. 学修支援	アドバイザー制度やオフィスアワー制度などのシステムを活用して学修支援体制を整えていることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	アドバイザー、授業担当者が相互に情報交換をするなど、学生支援を行うとともに、学生と教員が定期的にミーティングを行い、学生生活上の問題解決に貢献している点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	アクティブ・ラーニングの実施率が高く、両学部共に積極的に取り入れて、双方向型の学びを重視した教育方法を用いていることは評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	IR課、IR委員会による、重要な課題に絞ったIR報告書をもとにした全教職員対象のIR報告会を定期的実施し、詳細な学修成果の点検をしていることは評価できる。
桐朋学園大学	2-2. 学修支援	図書館に音楽学で修士号を取得した専門的知識を有する職員を配置し、論文執筆に取り組む学生の学修支援をしていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	卒業・修了して5年までの卒業・修了生に対してもキャリア支援を行っていることは評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	調布キャンパスの図書館では、ICゲートと自動貸出機を導入し、職員や委託スタッフが退勤した後でも学生が図書館資料やデータベースが利用できる点は高く評価できる。

桐朋学園大学院大学	3-2. 教育課程及び教授方法	大学院大学として高度な研究をするに当たって必要となる基礎的な力を養い、使命・目的を具現化する専門教育において附属研究機関との連携を図る等、演奏系の大学としての特性が教育研究活動と結びついている点は評価できる。
東北公益文科大学	3-2. 教育課程及び教授方法	情報交換ツール「s4」を通じて大学から学生への情報伝達、オンライン授業、学生からの意見聴取などに活用しており、コロナ禍でも効果的な学修効果を担保し、広く意思疎通が図れている点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	アセスメント・ポリシーが策定され学修成果の点検・評価方法が確立しており、それに基づいた点検・評価が行われている点は評価できる。
東北文教大学	2-1. 学生の受入れ	入学時に基礎学力に対するアセスメント・テストを実施し、元高校教員の職歴を持つ教員が運営する学修支援センターを通して、入学後の学修支援に生かしていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	教職実践センターのサポートにより、教員免許取得希望者の教員就職率が高い点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	「保育職セミナー」「企業研究会」では保育所や認定こども園の園長・施設長、地元企業や山形県警察本部、山形県の人事担当者を招いて模擬面接を行うなど、就職先となる機関団体との協力関係を構築し、キャリア支援に取り組んでいる点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	大学院進学を目指す学生のために、山形大学大学院教授や上越教育大学教授による大学院の説明会を学内で開催するなど、進学先となる大学院との協力関係を構築している点は評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	学長補佐を若手教員の意欲と能力を引出すための役職と位置付けており、学長が准教授以下の教員を中心に、経歴、活動業績、意欲等から判断して選任した学長補佐が学長に対して率直に意見・提案を申出て、実行に移していることは評価できる。
常磐会学園大学	5-1. 経営の規律と誠実性	学生の救命・救急活動への意識が高く、毎年AED（自動体外式除細動器）講習会に参加し、普通救命講習を授業内で行い地元消防署から修了証を受けていることは高く評価できる。
豊橋創造大学	5-1. 経営の規律と誠実性	人権への配慮の一環として、学生及び教職員対象のハラスメント相談窓口を学内に加え、外部機関への委託をもって学外にも設置しており、常時問題に対処できる体制を築いていることは評価できる。
長岡大学	2-2. 学修支援	ゼミナール担当教員によるアカデミック・アドバイザー制度を導入し、マンツーマン面談を行い、カルテを作成して教職員が共有し、協働しながら学修指導や学生生活、就職等の支援を行っている点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	就職支援室が卒業生のフォローアップを行い、就職から数年後にやむを得ず離職することになった卒業生に対しても、面談を行い、本人の希望や資質をもとにした再就職の支援をしている点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	「地域活性化プログラム」として、3年次生・4年次生が所属するゼミナールが主体となって地域社会をフィールドとする諸活動に参加させ、学生の地域の課題についての認識を深めるとともに、社会人基礎力の向上を図っている点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	授業科目ごとにルーブリックに基づいた成績評価基準を導入しシラバスに記載することで、履修する学生に対して学修成果目標を明示し、学修支援に結びつけようとしている点は評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	毎年「中期計画達成に向けた目標管理シート」に基づく自己点検・評価に取り組む、課題を全教職員が共有し、PDCAサイクルにより新たな取り組みや施策の改善につなげていることは評価できる。
名古屋学芸大学	2-3. キャリア支援	「遠隔地就職活動交通費支援制度」を設けて、就職試験とインターシップ参加に掛かる学生の費用負担を補助している点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	入学時の健康診断の一つとして麻しん、風しん、水ぼうそう、流行性耳下腺炎の抗体検査を行い、抗体価の低い学生には予防接種の必要性を説明し、費用の一部を大学が補助して接種を勧奨している点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	アセスメント・ポリシーを策定し、多様な評価指標に基づき、学修成果の点検・評価を行い、教育内容・方法及び学修指導等の改善に取り組むとともに、評価指標に係るデータを分析・閲覧をしやすい仕組みを整備して、さまざまな分野で活用している点は高く評価できる。

名古屋造形大学	4-2. 教員の配置・職能開発等	FD活動の向上及び教育活動の振返りを目的に、全専任教員がティーチングポートフォリオを作成し、その内容を大学ウェブサイトで公開している点は評価できる。
日本映画大学	2-5. 学修環境の整備	「今村昌平記念スタジオ」は電動昇降式の照明バトンなどを備えている本格的な映画撮影を学生に学ばせるための施設であり、建学の理念及び建学の精神に基づいてこのような実習施設を整備している点は、高く評価できる。
日本薬科大学	2-5. 学修環境の整備	薬学部薬学科に漢方薬学コースが設置されている点からも漢方資料館は貴重な施設であり、学生の利用のみならず学外見学者にも開放され、広く利用されている点は評価できる。
	4-3. 職員の研修	教育体制整備への参画意識の醸成を目的として、教員相互による授業参観に全職員が参加していることは評価できる。
ノースアジア大学	2-2. 学修支援	退学希望学生に対する三者面談等の相談体制や、保護者に対する「ゼミナール便り」による情報共有の場の提供、担当学生委員が学生との面談で助言・指導を行う「ともだち作戦」等により、きめ細かい学修支援策を行っている点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	国家試験等センターにおいて、公務員採用試験や各種資格試験のための講座を設置し指導を行うほか、宅地建物取引士やファイナンシャル・プランニング技能士等の25種類の資格試験に対応した「WEB資格講座」を設置するなど、学生のスキルアップを支援する仕組みが充実している点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	「学生FDミーティング」を年1回開き、授業評価アンケートには出てこない学生の授業や学修に関する率直な意見を直接くみ上げ、フィードバックを行うなど、授業改善につなげる体制を整備していることは高く評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	低学年次配置の科目の成績評価において、ルーブリックを導入したことで、教員の授業方法が一方通行型から双方向型に変化したり、授業内で演習や発表が取り入れられたりなど、教員の授業運営方法や教授方法などに工夫や変化が見られたことは高く評価できる。
梅花女子大学	2-5. 学修環境の整備	大学を体現するスローガンである「チャレンジ&エレガンス」に従い、花と緑と水のある学修環境へと改修が進められている点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	コロナ禍の学生への経済的支援として、食料品や生活用品の援助を実施しており、対面授業の全面再開後は学食の半額提供を継続するなど、学生の生活基盤が整うよう努めている点は評価できる。
八戸学院大学	3-2. 教育課程及び教授方法	学生の情報リテラシーとプレゼンテーションスキルの獲得・向上を主眼とする独自教材を開発し、全学科の1年次必修授業である「基礎演習」「プレゼンテーション」で活用していることは、学生が能動的な学修に取り組むための効果的な教授方法として評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	授業アンケートで評価の高い教員の授業を参観する取り組みである「公開授業・教員相互の授業参観および評価アンケート」を実施し、授業方法の改善を進め成果を挙げていることは評価できる。
	5-5. 会計	監事会の定期的な開催や監事と会計監査人との情報交換会など、監事、会計監査人及び監査室との連携や意思疎通が活発に図られている点は、高く評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	第三者で構成される外部評価委員会の設置、併設の短期大学との間での相互評価は、自己点検・評価の客観性や妥当性でチェックを受け、自己点検・評価の有効性を高める仕組みとして高く評価できる。
東大阪大学	3-2. 教育課程及び教授方法	「こども研究センター」は、大学の研究機関、地域社会とのネットワークであると同時に学生の学びの場となっており、「こども応援ひろば」での活動を観察しながら授業を行い、利用者からの意見を授業に取り入れるなど、教育の実践的な場となっている点は評価できる。
兵庫大学	2-4. 学生サービス	学生食堂では、朝食を100円で提供しており、経済的な学生支援だけでなく健康管理の面からも評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	地域医療福祉研修センターでは、高度な設備を有した看護・介護分野における実践的な多職種連携の授業を行い、高い教育効果を挙げるとともに、介護員養成や地域住民を対象にした研修会の開催など学外対象者にも開放していることは評価できる。

兵庫大 学	4-2. 教員の配 置・職能開発等	教育の質の向上に資する成果を収めた教員を表彰する「兵庫大 学・兵庫大短期大学部グッド・プラクティス賞」の選抜を、授 業評価アンケートなど学生の声を反映し行っている点は、評価で きる。
	4-2. 教員の配 置・職能開発等	活動報告の一環として、「FD・SD Newsletter」を学長直轄の組織 であるFD・SDオフィスが作成し、活動の具体的な様子を定期的に 学内に向け発信・啓発している点は、評価できる。
	4-2. 教員の配 置・職能開発等	大学全体として組織的に授業公開制度を整備し、全教員に公開と 参観を義務付け、教員相互の研さんを促している点は、評価でき る。
	5-1. 経営の規律 と誠実性	携帯可能なポケット版「大地震対応マニュアル」を作成し、全学 生と教職員へ配付し、日常的な防災意識の啓発に努めている点は 評価できる。
	5-3. 管理運営の 円滑化と相互 チェック	毎年の法人の創立記念日に全教職員が一堂に集まり、理事長によ る経営状況の説明などを通じ、法人全体としての意見交換を行っ ている点は、評価できる。
	5-3. 管理運営の 円滑化と相互 チェック	理事長と各所属長が毎月1回定例で、教学面や管理運営面の諸課題 について意見交換する懇話会を実施している点は、評価できる。
	5-4. 財務基盤と 収支	外部資金の導入について、有料のエクステンション・カレッジの 開講数が多く、今後も生涯学習やリカレント教育の場の拡充を計 画しており評価できる。
	6-2. 内部質保証 のための自己点 検・評価	情報の一元化、共有、活用をコンセプトとした独自の学生支援シ ステムとして「HUsystem」を構築し、教職員が組織的に学生個々 の成長を支援するとともに、システムの内製化により、スピー ディな解決と的確さ、コスト削減を行っていることは高く評価で きる。
びわこ成蹊スポー ツ大学	2-1. 学生の受入 れ	研究科目を一部前倒しして履修できる早期履修制度は、 GPA(Grade Point Average)が高水準にあり、高い研究意欲を有す る学生の学びの機会を支援する制度として着実に機能しており、 学生受入れの工夫として評価できる。
	2-6. 学生の意 見・要望への対 応	授業評価アンケートを7週目授業終了時に実施し、8週目授業開始 前に教員へフィードバックし授業改善を促すことは、学生にとっ てより有益な授業が提供されることにつながる取組みとして評価 できる。
	3-2. 教育課程及 び教授方法	必修の初年次教育の一環として「フレッシュマンキャンプ演習」 を実施しており、さまざまな自然環境を生かしながらのアクティ ブ・ラーニングを経験させていることは評価できる。
	4-2. 教員の配 置・職能開発等	FD活動の一環としてアカデミックアワーを設け、教員の専門分野 の研究成果や実践報告を披露し、情報共有や研究の促進、教職員 の資質向上を図っていることは評価できる。
	4-4. 研究支援	アスリートの総合的な体力・技術的な測定評価を実施できる施設 「ASS」を同一施設内に整備し、JSC(独立行政法人日本スポーツ 振興センター)が、国際競技力向上のための事業として設置して いるHPSC(ハイパフォーマンススポーツセンター)の連携機関と して認定を受けていることは評価できる。
	5-1. 経営の規律 と誠実性	学生・教職員・プロスポーツチーム・地域住民が互いに協力し合 い、周辺地域の清掃活動を行う「レイクスクリーンウォーク」 が、「環境学習×運動体験×地域清掃」ハイブリッド型の複合イ ベントとして、SDGs・MLGs(≒琵琶湖版SDGs)を学びながら実践 する取組みであることは評価できる。
福島学院大学	3-2. 教育課程及 び教授方法	カリキュラムツリーにより授業科目とディプロマ・ポリシーとの 関連を理解しながら体系的に学修できることは、教授法の工夫と して評価できる。
北海道情報大学	2-4. 学生サー ビス	学生生活で困ったことや必要な手続き等をどこへ相談すればよい のか分からない学生が最初に相談できる窓口として「すけっと ルーム」を設置している点は評価できる。
	4-2. 教員の配 置・職能開発等	「北海道情報大学カリキュラム・アドバイザーボード規程」に 基づき、毎年度大学の現状を踏まえたテーマを定め、企業等にお ける高い識見と経験を有するアドバイザーから助言を受け、カリ キュラムの検証や改善、教員の質の向上に努めている点は評価で きる。

北海道情報大学	4-4. 研究支援	食の臨床試験を中心とする「食の健康」の研究と、大学の情報技術を融合し「食と健康と情報」としての体制を強化し、官民の共同研究事業として新たな研究に発展・応用させていることは評価できる。
	4-4. 研究支援	「メディアクリエイティブセンター」のモーションキャプチャー及び映像制作スタジオや、医療情報センターの臨床工学実習室等、先進的な実験実習環境を整備し教育研究施設及び設備の充実を図っていることは評価できる。
	4-4. 研究支援	「宇宙情報センター」は、宇宙開発における情報通信技術の教育研究環境を整備し、大学が所属する学校法人が関連する宇宙開発企業や宇宙航空研究開発機構(JAXA)との技術交流により、技術者育成の体制を整備するとともに社会貢献に活用していることは評価できる。
北海道千歳リハビリテーション大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	大学は、専門家養成だけではなく「健康増進、障がい予防リハビリテーションによる住民の健康増進での地域貢献」を掲げた人材育成への取組みと中期目標・中期計画において、地域を指向した教育・研究に関する目標を定めていることは評価できる。
	2-2. 学修支援	学生の孤立を防ぎ、学修グループの形成を促すため、クラス単位で親睦会等を開催しており、その経費を大学が負担していることは評価できる。
松山東雲女子大学	2-3. キャリア支援	キャリア教育で目指す「東雲力」の更なる育成のために、社会人講座である「しののめプラス」、再就職や学び直しなどの生涯を通じた活躍支援である「しののめ人財バンク」を整備していることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	婦人科医師、助産師による相談体制をとり、女性の健康に関する特別な配慮を継続的に実施していることは評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	「ディプロマ・ポリシー到達度評価シート」を作成・活用することを通して学生にディプロマ・ポリシーを周知するとともに、学生が各自の学修到達度を可視化できるようにすることで教育の質を高めていることは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	職場環境整備の取組みが、働き方の見直しに資する取組みということで、愛媛県内の教育機関で唯一「えひめ仕事と家庭の両立応援ゴールド企業(第55号)」に認証されたことは評価できる。
目白大学	2-3. キャリア支援	多様な属性を持つ学生に細やかに対応するためキャリアコンサルタントやキャリアカウンセラーを配置し、全学対象キャリア科目担当専任教員を新たに任用するなど、キャリア支援の全学的体制の強化に努めており、保護者対象就職説明会や「保護者のための就職活動支援ガイド」の配布など、保護者と連携したキャリア支援にも力を入れていることは、「育てて送り出す」という教育理念の実現を目指すものとして評価できる。
	2-4. 学生サービス	地域社会に貢献する学生の企画について大学が資金面での支援を行う「SPISチャレンジ制度」は、学生の自主性と創造性を喚起するものであり、学生が自ら学びを深めるための機会を与える取組みとして評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	高等教育研究所において教員の遠隔授業に対する授業力向上という視点で「目白大学授業力向上のためのハンドブック」を刊行し、全教員に配付することで授業に生かしている点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	SDGsに関する科目を体系的に履修できるよう、「SDGs副専攻」を開設するなど、SDGsに対する意識を向上させようとする取組みを全学的に実践している点は評価できる。
盛岡大学	2-2. 学修支援	図書館利用を促進するために、親しみやすいキャラクターを用いていること、「図書館学生サポーター」を導入していること、レポート及び論文作成の入門書として「図書館指南書」を作成し、学内の学びと図書館の活用の工夫との連携を図っていることは高く評価できる。
安田女子大学	2-4. 学生サービス	学生が健康的な生活を送ることができるよう、「学生食堂まほろば」の朝食を無料で、夕食を半額で提供していることは高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	学生がキャンパスで快適に過ごせるよう、ソファや個室ブース、ワークスペース等を構内の随所に配置するなど、学生の居場所づくりに取り組んでいることは評価できる。

安田女子大学	3-2. 教育課程及び教授方法	教養教育科目の特別科目「まほろば教養ゼミ」は大学の教育目標に沿って編成された特色ある科目であり、大学の使命・目的の周知、学修指導、学生生活及び就職活動支援等において重要な役割を果たしていることは高く評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って海外研修プログラムが体系的に整備、実施されており、語学力向上及びキャリア形成等に効果を挙げていることは評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	全学科の実施概要等をまとめた「学科FD通信」を発行し、全教職員で共有していることは評価できる。
山梨学院大学	2-2. 学修支援	中途退学の決定前に、学部長又は副学部長が個別に面談を行い、中途退学を避ける努力だけでなく、退学決定後の進路に関する助言まで行っている点は、学生本位の支援として評価できる。
	2-3. キャリア支援	日本国内のみならず、海外で働くビジネスパーソンとの就業体験を含め、さまざまな業種・事業体での就業体験やケーススタディに1年次から参加できる仕組みを提供していることは、学生自身の進路選択や将来のキャリアについて早期から考える機会を提供する取組みとして評価できる。
	2-4. 学生サービス	学生へのサービス強化のため、学生センターを学生課と健康相談課の2課体制とし、特に健康相談課は保健管理室・学生相談室・特別修学支援室の三つの組織を整備して、さまざまなニーズを有する学生に活用されている点は評価できる。
	4-3. 職員の研修	職員の自己啓発を促進するために、「職員自己啓発助成金支給制度」と「TOEIC行政職員自己啓発助成金」を設けて、語学習得や資格取得等に多く利用されている点は評価できる。

2. 短期大学

機関名	基準項目	優れた点
宇部フロンティア大学短期大学部	2-4.学生サービス	「学生支援方針」を定め、チューター制度や学生相談室などを整備し、学生の心身の健康に関する相談に応じ、助言を細やかにを行っている点は評価できる。
	2-5.学修環境の整備	図書館では、スチューデントワーカーの活用、学外館連携事業、学生協働活動、宇部市立図書館職員との意見交換会の実施といったさまざまな取り組みを行っており、それらの活動に学生が積極的に参加している点は高く評価できる。
大阪芸術大学短期大学部	2-2.学修支援	各学科の合同研究室及び各学科・コース研究室には、「非常勤助手」を積極的に配置しており、教員の教育活動の支援と授業の充実を図っていることは評価できる。
	2-4.学生サービス	給付型奨学金「作文チャレンジ支援制度」等の独自の奨学金制度を設け、積極的な経済的支援を行っていることは評価できる。
作新学院大学女子短期大学部	2-2.学修支援	「障がい等を有する学生への支援に関する基本方針」を整備し、教員とキャンパスライフ支援室が協働しながら障がいのある学生や合理的配慮を必要とする学生へきめ細かい支援を行っていることは、高く評価できる。
	4-2.教員の配置・職能開発等	短期大学独自のFD・SD活動として、短期大学に即したテーマの勉強会や学生FD・SD勉強会を毎年度実施しており、特に学生FD・SD勉強会では、学生からの丁寧な意見聴取が行われており、評価できる。
	4-4.研究支援	科学研究費助成事業獲得の促進を目的として、獲得者に対して、その評価に見合った金額を成果報酬として賞与へ反映していることは評価できる。
西南女学院大学短期大学部	1-2.使命・目的及び教育目的の反映	1年次の必修科目として「キリスト教保育」を開講し、「子ども」を神の国の中心として捉えるキリスト教保育の理解を深め「西南女学院生」としての自己形成を深める積極的取り組みは評価できる。
	2-2.学修支援	「退学防止のための学科における取り組み状況」として、年度方針を定め、分析を行い、次年度の改善策を定めるなど、退学防止策が充実している点は、評価できる。
	2-4.学生サービス	毎年、新入生に「健康調査(University Personality Inventory)」を実施し、必要に応じて学生総合支援室への来談勧奨を行い、学生のメンタルヘルス支援体制が構築されている点は評価できる。
八戸学院大学短期大学部	2-3.キャリア支援	介護福祉士国家試験対策として不得意科目対策を行い、留学生も含めて合格率100%にするなど、資格取得に向けて個別指導に取り組んでいることは評価できる。
	3-2.教育課程及び教授方法	少人数のクラスやグループに分けた指導に組み、教育効果を高めていること、人間関係が構築しやすい体制を整備していることは評価できる。
	5-5.会計	監事会の定期的な開催や監事と会計監査人との情報交換会など、監事、会計監査人及び監査室との連携や意思疎通が活発に行われている点は、高く評価できる。
	6-2.内部質保証のための自己点検・評価	関係団体懇談会の設置、併設大学との間での相互評価は、自己点検・評価の客観性や妥当性でチェックを受け、自己点検・評価の有効性を高める仕組みとして高く評価できる。
兵庫大学短期大学部	2-4.学生サービス	学生食堂では、朝食を100円で提供しており、経済的な学生支援だけでなく健康管理の面からも評価できる。
	4-2.教員の配置・職能開発等	教育の質の向上に資する成果を収めた教員を表彰する「兵庫大学・兵庫大学短期大学部グッド・プラクティス賞」の選抜を、授業評価アンケートなど学生の声を反映している点は、評価できる。
	4-2.教員の配置・職能開発等	活動報告の一環として、「FD・SD Newsletter」を学長直轄の組織であるFD・SDオフィスが作成し、活動の具体的な様子を定期的に学内に向け発信・啓発している点は、評価できる。
	4-2.教員の配置・職能開発等	短期大学全体として組織的に授業公開制度を整備し、全教員に公開と参観を義務付け、教員相互の研さんを促している点は、評価できる。

兵庫大学短期大学部	5-1.経営の規律と誠実性	携帯可能なポケット版「大地震対応マニュアル」を作成し、全学生と教職員へ配付し、日常的な防災意識の啓発に努めている点は評価できる。
	5-3.管理運営の円滑化と相互チェック	毎年の法人の創立記念日に全教職員が一堂に集まり、理事長による経営状況の説明などを通じ、法人全体としての意見交換を行っている点は、評価できる。
	5-3.管理運営の円滑化と相互チェック	理事長と各所属長が毎月1回定例で、教学面や管理運営面の諸課題について意見交換する懇話会を実施している点は、評価できる。
	5-4.財務基盤と収支	外部資金の導入について、有料のエクステンション・カレッジの開講数が多く、今後も生涯学習やリカレント教育の場の拡充を計画しており評価できる。
	6-2.内部質保証のための自己点検・評価	情報の一元化、共有、活用をコンセプトとした独自の学生支援システムとして「HUsystem」を構築し、教職員が組織的に学生個々の成長を支援するとともに、システムの内製化により、スピーディな解決と的確さ、コスト削減を行っていることは高く評価できる。
福島学院大学短期大学部	3-2.教育課程及び教授方法	カリキュラムツリーにより授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連を理解しながら体系的に学修できることは、教授法の工夫として評価できる。
松山東雲短期大学	2-2.学修支援	各学科に共同研究室が設置され、専門に関わる資料の閲覧及び助手の常駐など学生が専門的な学修について気軽に相談できる環境が整備されていることは、学生の専門性の向上及び学生ニーズのより迅速な把握という点において評価できる。
	2-3.キャリア支援	在学生、卒業生の「東雲力」育成のための学び直し、学びの継続を支援する「しのめプラス」、短期大学の卒業生に生涯を通じた活躍支援を行う「しのめ人財バンク」を設け、在学生のみならず卒業生に対しても生涯学び続けられるようキャリア支援を行っていることは評価できる。
	2-4.学生サービス	婦人科医師による相談日、助産師による「からだの相談日」「心療内科医による心の相談日」などが設けられ、学生の心身に対する相談支援体制が充実していることは評価できる。
	3-3.学修成果の点検・評価	「ディプロマ・ポリシー達成度評価シート」によって学生が個々の授業科目で、ディプロマ・ポリシーに示された能力開発目標の達成度を自己評価できる仕組みが導入されており、学修成果が可視化できていることは高く評価できる。
	5-1.経営の規律と誠実性	職場環境整備の取組みが、働き方の見直しに資する取組みということで、愛媛県内の教育機関で唯一「えひめ仕事と家庭の両立応援ゴールド企業（第55号）」に認証されたことは評価できる。